

27年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年 7月1日～ 27年7月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
入荷動向	国産材	△ 16.7	0.0	16.7
	外材	△ 25.0	△ 12.5	0.0
在庫動向	国産材	41.7	25.0	△ 8.3
	外材	50.0	16.7	0.0

・国産材ラミナの入荷は7月の減少が、8月の横ばいから、9月は増加。外材は7月及び8月の減少が9月は横ばい。

・国産材ラミナの在庫は7月及び8月の増加が、9月は減少。外材は7月及び8月の増加が、9月は横ばい。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
国産材	0.0	0.0	10.0
欧州材	33.3	0.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷価格は7月及び8月の横ばいから9月はやや強保合。欧州材は強含みないし強保合。その他は横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギラミナは順調に入荷しているが、仕入量の調整を実施中、北海道産ラミナは順調に入荷だが、岩手県産ラミナの入荷状況は良くない。スギは在庫調整で、在庫量は横ばい、カラマツは前月同様、仕入量を調整しており、在庫量は横ばい。
・国産・外材とも引き続き入荷調整中、在庫調整中。
・外材は先行き不透明感が強く、増加とも減少とも分からない。秋に向かって少しずつ構造材の需要が伸びて、国産材はやや動きが増加の見通し。需要の増加に伴い在庫は少しずつ減少していくと予想する。

(ラミナ価格動向)

・スギは製品荷動きが悪いため、丸太価格も弱含み傾向である。カラマツは北海道産、岩手県産ともに丸太価格が強含んでいるため、ラミナ価格は高値横ばい。
・円安に振れた分上昇。
・販売材の荷動きが活発化することにより丸太単価の反発が予想される。

27年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
生産動向	国産材	16.7	25.0	16.7
	WW集成管柱	△ 50.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 33.3	0.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	0.0	33.3
	WW集成管柱	△ 25.0	△ 25.0	0.0
	RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	米マツ集成平角	△ 25.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は3ヵ月連続して増加。WW集成管柱、RW集成平角及び米マツ集成平角は7月の減少が、8月及び9月は横ばい。

・国産材集成材の出荷は、7月及び8月の横ばいが、9月は増加。WW集成管柱及びRW集成平角は、7月及び8月の減少が、9月は横ばい。米マツ集成平角は7月の減少が、8月及び9月は横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
スギ集成管柱	△ 50.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	△ 25.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	△ 25.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 25.0	0.0	0.0
RW集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	△ 25.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱、ヒノキ集成柱及びヒノキ集成土台は7月の弱保合が8及び9月は横ばい。

・カラマツ集成土台は保合。
・WW集成管柱、RW集成平角及び米マツ集成平角は7月の弱保合が8月及び9月は横ばい。

・米ヒバ土台角及びカラマツ集成平角は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・前月より製品受注が若干増加傾向にあるため生産もやや増加。7月は一部の災害公営住宅向けの荷動きが出てきている。また、住宅メーカーの着工数も増加傾向。8月以降は本格的な災害公営住宅の着工が見込まれるが、ハウスメーカーにおける冬場の契約棟数が少なかったこともあり、秋以降の急激な回復は見込めない。

・一部調整段階から脱却したが、依然として先行きは不透明なため出荷に合わせた生産。出荷は今月は若干増加の見込み、来月以降は不透明。

・需要が急に高まれば、安定供給できるかがカギとなる。今、生産し、需要増に備える。米ヒバ集成土台角は、今月に入り増加傾向、ただし、大幅な伸びを期待してはいけない。秋に向かって需要が伸びてくれば必然的に出荷増となる。ここにきてヒノキEW数十m3程度の見積もり多くなってきた。一部のビルダーでは多少のコストアップでもヒノキの訴求力で売り込みをかける方向に転換したところもあり。米ヒバの集成土台も徐々に増加の見込み、コストパフォーマンスやや難。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、大手メーカーの安値玉が横ばいになっており、販売先からの値下げ要請は強い。WWからスギ集成材への樹種転換をする動きがあるが、当面の間、価格は低調で推移し、値戻しは難しい状況にある。カラマツは、原材料の価格が横ばいなので製品価格は横ばい。また大手ビルダーによる集成材メーカー指定の影響で一部の製品に値下げ要請があるが、原材料背景から値下げに対応できる状況でない。しかし、輸入材の価格が弱く低調で推移することが予想される。

・WW管柱は、底を打った感があるが、RW平角は来月までズルズルと行きそうな予測。

・柱は、6月くらいが一番底値でないか、値上がりに転じるのは未だ先だろうか。今は価格よりも供給の安定性、継続性を訴えて、まとまったボリュームを取り付けるほうが大事。土台は下げ止まりした。一転して需要増へ向かっていくだろう。米ヒバは6月は北海道が好調だった。また、全国的に4寸が出始め、やっと忙しくなってきた予感。値段は周りを見ながら、だが外材は余り上がりそうにないのでこのままずっと行くのでは？